

第2回定例会

4名の議員が理事者の考えを質しました。

・一般質問

一般質問



吉野正剛 議員

佐呂間高校の間口削減対策について

【質問】佐呂間高校の間口削減、将来の再編の問題を回避するため、町としてどのように考えているのか伺います。

【答弁】(町長) 数年前より高校に入学した生徒全てが卒業する個別指導体制が確立されており、保護者、教職員、地域がサポートしている結果と思います。情報化が進む中で小さな学校の良さを発揮し、地域キャンパス校導入も想定し、義務教育同様な通学体制の確立、体育文化活動の助成、国際交流の充実等について、よりきめ細かな対応を図りたいと考えています。

【質問】(町長) 中学卒業生の減少が進む中、特色ある教育を奨励し、

今後の佐呂間高校について

どう考えるか!

町長へ 地域キャンパス校導入も

想定しながら、特色ある教育を

奨励していきたい。

例え1間口であっても、現況の体制を進めるとともに、佐呂間高校の後押しをしたいと考えております。

【質問】町立である中学校の現況が町民に周知されていないと思いますが、今後の中学卒業生の動向を伺います。

【答弁】(教育長) 高校だよりのような学校通信が中学校にも必要と考えております。今後は様々な情報、学校の様子を町民に周知していくよう指導していきたいと思います。

卒業生の動向は平成22年、47名、それ以降59名、47名、54名、45名、平成27年は33名、平成28年は55名とかなり増減のある状況です。

【質問】28年度までの卒業生の推移から、当面2間口の維持は可能かと思うのですが、いかがですか。

【答弁】(教育長)

1 学級40名以上いなければ2間口の確保が困難であり、2割から3割が町外へ進学している状況の中で、2間口を確保することは困難と判断しております。1間口は当分確保できると判断しているが、そうなるとキャンパス校として存続する形になると考えております。

【質問】佐呂間高校の特徴、良さを父兄や町民に向けて、積極的に啓発することが必要だと思いますが、いかがですか。

【答弁】(教育長) 従来のような形の要請行動は限界があると思います。しかし中学生、保護者に対し、高校が現在行っている教育活動を理解し、評価していただく必要があると思いますし、東京農大綱走校との高大連携や地域に結びついた環境教育

の推進、学校の活性化等に努力することにより、更に活気が生じると思います。

教育委員会でも色々な機会を通して高校の良さを働きかけ、あわせて高校にも努力をいただくようお願いをしていきたいと考えております。

【質問】管内では6町が色々な形の通学者支援を行っております。本町でも支援を行っておりますが、支援枠の拡大は考えられないのか伺います。

【答弁】(教育長) 来年10月からふれあいバス(仮称)が運行されます。通学運賃をどうするかは今後の問題ですが、今の民間バスよりは父兄の負担が軽減されると考えております。

また、現在、各種全道大会出場時の助成や姉妹校交流事業への助成、部活動への全校応援の町有バス対応などをしておりませんが、授業で町外へ出向く場合の支援も考えております。

2間口が維持できるのであれば、金銭的にももっと応援することがあると考えますが、1間口となれば、当面ふれあいバスでの通学費の軽減という形で様子を見させていただきたいと思っております。

第2回定例会

・一般質問



安田 一彦 議員

ふれあいバス (仮称) について

【質問】 ふれあいバス運行計画案の概要が発表された後の計画変更又は追加された部分があるかお知らせください。

【答弁】 (町長)

町外路線(町単独運行)の遠軽線の運行日を月、水、金曜日と北見線の運行日を火、木曜日に変更。

(各目的病院と乗るバスの曜日が合うよう協議をしてもらう)(遠軽線はJRで札幌へ行く人も混乗する場合もある)

運行開始時期が平成22年10月1日から変更。

料金設定の町内路線乗車料金は無料に変更。

改正点は3点ですが、更にこのバスで回れない地域に予

ふれあいバス(仮称)運行計画案の変更、追加について!

町長 9月以降に住民説明会を開き、

計画案に住民にPRしたい。

約によるダイヤモンド方式で福祉車両の運行をしたいと考えております。

また、ふれあいバス運行に併せ、富武士、若里地区の保育所通所バスについては、運行経費は町が全額、添乗員経費の2分の1の負担で、残り2分の1を保護者負担と考えていますが、これらの計画案を9月以降に説明会を開催し住民PRをしたいと考えております。

【質問】 町外路線のバスの形状、運営方法は、また国の補助制度の対象とならないのか。

【答弁】 (企画財政課長)

現在の15人乗りのスクー ルバスで遠軽厚生病院、北見赤十字病院へ運行します。予約者の多い場合は予備車で対応と考えます。

補助については、支庁を通し国へ特別交付税の対象と

なるよう要請をしておりますし、過疎地域では高齢化に伴い医療関係の送迎経費が一番の負担であることを伝えております。

【質問】 町が自立の道を歩

んだ時から、行財政改革は町民も協力をしなければ成功はしないという自立心を培ってきたと思っております。今、バス料金を無料にすることにより自立心が薄れるのではと心配しております。

町民が無料とする納得のい

【答弁】 (町長)

子供の通学、高齢者や足の不自由な人の手足となるようなバス運行、高校生の減少する中、間口確保も考えての無料化ということでご理解いただきたいし、町民の意見を十分聞き、最終決定をしたいと思っております。

【質問】 身障者の交通費は2

分の1の助成がなされているとお聞きするが実情をお知らせください。

【答弁】 (保健福祉課長)

福祉サイドでは町内病院利用者はバス利用券を発行、タクシーの場合は初乗り料金と超過料金を助成する部分があり、回数に制限はありますが助成をしています。

【質問】 ふれあいバスが運

行された時もこの制度は存続されますか。

【答弁】 (保健福祉課長)

バス利用券は無料となるので廃止します。タクシーの部分はそのまま制度を残すべきと内部で検討しているが、難病などで町外の医療機関に通っている方々にも助成をしており、これらも含め検討が必要だが、即切るようなことは今現在考えておりません。

【質問】 保育所の通所にか

かる料金については当時の幼保一元化の状況、子育て支援法から全額助成するとは考えられないでしょうか。

【答弁】 (町長)

佐呂間保育所は2歳児から通所しますので、添乗員の同乗が必要であり、2分の1の助成で理解をいただきたいと思います。

第2回定例会

・一般質問



小松正義議員

細菌性髄膜炎の予防接種に 助成する考えは！

町長へ安全性の確認や安定した供給体制
が整った時に検討する。

細菌性髄膜炎（ヒブ ワクチン）の対応に ついて

【質問】インフルエンザB型ウイルスに感染すると、乳幼児の発症が非常に高いという細菌性髄膜炎の予防接種について、少子化が進んでいる中、子供たちが健康に成長できるように早急に対処すべきではないかと考えるが、町の考え方を伺います。

【質問】インフルエンザB型ウイルスに感染すると、乳幼児の発症が非常に高いという細菌性髄膜炎の予防接種について、少子化が進んでいる中、子供たちが健康に成長できるように早急に対処すべきではないかと考えるが、町の考え方を伺います。

新型インフルエン ザの対応について

【質問】新型インフルエンザは、病気の方、乳幼児、幼児に感染すると重くなるとの心配もありますが、対応を伺います。

【質問】新型インフルエンザは、病気の方、乳幼児、幼児に感染すると重くなるとの心配もありますが、対応を伺います。

【質問】新型インフルエンザは、病気の方、乳幼児、幼児に感染すると重くなるとの心配もありますが、対応を伺います。

【質問】新型インフルエンザは、病気の方、乳幼児、幼児に感染すると重くなるとの心配もありますが、対応を伺います。

【質問】インフルエンザB型ウイルスに感染すると、乳幼児の発症が非常に高いという細菌性髄膜炎の予防接種について、少子化が進んでいる中、子供たちが健康に成長できるように早急に対処すべきではないかと考えるが、町の考え方を伺います。

【質問】インフルエンザB型ウイルスに感染すると、乳幼児の発症が非常に高いという細菌性髄膜炎の予防接種について、少子化が進んでいる中、子供たちが健康に成長できるように早急に対処すべきではないかと考えるが、町の考え方を伺います。

【質問】インフルエンザB型ウイルスに感染すると、乳幼児の発症が非常に高いという細菌性髄膜炎の予防接種について、少子化が進んでいる中、子供たちが健康に成長できるように早急に対処すべきではないかと考えるが、町の考え方を伺います。

【質問】インフルエンザB型ウイルスに感染すると、乳幼児の発症が非常に高いという細菌性髄膜炎の予防接種について、少子化が進んでいる中、子供たちが健康に成長できるように早急に対処すべきではないかと考えるが、町の考え方を伺います。

【質問】インフルエンザB型ウイルスに感染すると、乳幼児の発症が非常に高いという細菌性髄膜炎の予防接種について、少子化が進んでいる中、子供たちが健康に成長できるように早急に対処すべきではないかと考えるが、町の考え方を伺います。

【質問】インフルエンザB型ウイルスに感染すると、乳幼児の発症が非常に高いという細菌性髄膜炎の予防接種について、少子化が進んでいる中、子供たちが健康に成長できるように早急に対処すべきではないかと考えるが、町の考え方を伺います。

敬老会の町助成金の再検討について

【質問】町財政の苦しい状況はわかるが、人を愛する心、敬意、敬愛の心の持ち方が大切であり、この心を持って接する町行政を望みます。敬老会について再検討する考えがあるか伺います。

【質問】町財政の苦しい状況はわかるが、人を愛する心、敬意、敬愛の心の持ち方が大切であり、この心を持って接する町行政を望みます。敬老会について再検討する考えがあるか伺います。

【質問】町財政の苦しい状況はわかるが、人を愛する心、敬意、敬愛の心の持ち方が大切であり、この心を持って接する町行政を望みます。敬老会について再検討する考えがあるか伺います。

【質問】町財政の苦しい状況はわかるが、人を愛する心、敬意、敬愛の心の持ち方が大切であり、この心を持って接する町行政を望みます。敬老会について再検討する考えがあるか伺います。

第2回定例会

・一般質問



但木早苗議員

火災報知器の設置 支援について

【質問】政府が追加経済対策を打ち出し、町に2億円余り交付されますが、この使途については地球温暖化、少子高齢化社会の対応、安心安全の実現、地域実情に応じた細かな72事業に交付するとあり、前回より生活支援に活用できる交付金だと考え、3月に引き続き質問をします。
設置が義務づけられた事、思いがけない交付金で、せめて弱者への支援ができないのが、3月答弁のように「命は自分で守るもの」の考えに変わりはないのでしょうか。
【答弁】（町長）
決して全て自分でやっていただきたいという突き返した言葉ではなく、本当に必要（有効）なのかという思いをしております。

国の臨時交付金を火災報知器の設置に活用できないか！

町長へ 報知器の必要性のみならず、火災の起こらない体制作りにも全力傾注したい。

高齢者の方々を含め、火災の起こらない体制づくりにも全力傾注したい。例えば地元企業による住宅の改修時、10%補助金を利用し、オール電化にしてもらうなどを考えております。

【質問】これは町の業者から買う訳で、今回の交付金の意図からそれではないと思えますが。

【答弁】（副町長）
弱者対策は町として選んでやりたいと思っております。また町が補助しているプレミアム券を活用していただくのも一つの方法と考えます。

乳幼児医療費無料化について

【質問】今、無料化は入院が15歳、通院は就学前までと年齢に開きがあり、また所得制限もあります。上ノ国町

では所得制限なしで高校生まで無料化とすることです。

町長も来年度に向け、何らかの子育て支援を考えたいと言っておりますが、無料化と対象年齢の引上げについて伺います。

【答弁】（町長）

新しい制度を構築したいという考えは全く変わっていません。来年4月に向け準備をしております。無料化だけに固執するのではなく農業世帯では4人、5人と子供が生まれ、頑張っている方がいらっしゃいますので、何らかの形で報いたいという事も含め、皆さんのご意見を聞きながら1番いいのかが、無料化も考慮に入れながら検討してまいります。と伺っております。
所得制限の適用については、多岐にわたる給付制度との整合性を図る観点から、現状での適用にご理解願いたい

と思います。

【答弁】（保健福祉課長）

所得制限は、乳幼児医療のみではなく、福祉医療3本ともにありますし、収入のある方については、公平性のバランスから、ある程度負担をしていただいてもいいのではないかと伺います。

生活保護の母子加算の廃止に伴う母子家庭への町独自の支援策について

【質問】4月から母子加算が全廃されました。母子世帯では健やかな子供達の発達のため、この加算があつて初めて最低限の生活が保障されているのではないのでしょうか。
町として何らかの支援策が必要と考えますが、考えをお伺いします。

【答弁】（町長）

大変な状況は生保の母子家庭だけではないと考えますし、国が示した支給額は生保世帯と一般の母子世帯の実態を見ると、必ずしも少ないとは考えがたく、町単独での支給については公平性という観点からすべきでないと考えております。